



発寒ひかり

保育園だより

2025年
12月号

巻頭言

以前『「ひとりひとりの権利を大切にした保育』～乳幼児からの性教育』という研修（講師：「生」教育アドバイザー山田亜弥さん）を受ける機会がありました。

「包括的性教育」という言葉をご存知でしょうか。包括的性教育とは、身体や生殖の仕組みだけではなく、人間関係や性の多様性、ジェンダー平等、幸福など幅広いテーマを含む教育のこと（ユネスコ等が作成）だそうです。

まずは、何を教えるのか？の前に、どんな大人が子どもにとつて「安心」できるのかと問われました。大人が正しい知識を学ぶ必要があり、安心できる大人から正しい知識を伝える事、昔と今とは生きている時代が違い、だからこそインターネットから偏った情報を得る前に、いかに素敵な価値観を子どもたちにプレゼント出来るかが大事ですと話されていました。

私自身、講演の中でとても印象に残った内容が以下の3つです。
①ジェンダー平等が前提であるが大人のバイアス（「偏見」「先入観」など）の問題。例：男は○○・女は△△

②汚いものや恥ずかしいものではなく、身体はどこもプライベートバーツであり、「あなた」の心と身体は「あなただけのもの」で、自分の意思で幸せに生きていく権利がある。

③凄く勇気がいる事で、相手を傷つけている？と不安になるかもしれないが、嫌だと思つてもいい、嫌だと言つてもいい。「NO」＝「嫌い」ではない。

人と比べて自信を無くしたり、自分の価値が分からなくなる事があっても、「自分は大切にされて産まってきた」「自分は価値のある存在だ」「自分は絶対的に肯定されている確信」が心の根っことなり、生きる力になる。それを育む事が「生」教育ですと締められていました。

色々な報道を見る度、心が痛くなる事もありますが、だからこそ、これから未来を生きる子どもたち一人ひとりが生きていく力になる素敵な価値観を、一つでも多く保護者と一緒に届けられる職員集団であります。